

海外の主な国際展の事例紹介

平成 28 年度に CCNJ では国際展部会が発足し、「部会設立ミーティング in 名古屋」（平成 28 年 8 月 29・30 日）の場で筆者が基調講演をさせて頂いた¹。この講演は参加自治体から反響を頂いたということで、一般社団法人ノオトより依頼を受け改めて本稿にて概要をまとめている。

主要な国外展の概要について一部最新の状況に更新しているが、その他の部分に関しては講演当時のものであることをご容赦願いたい。

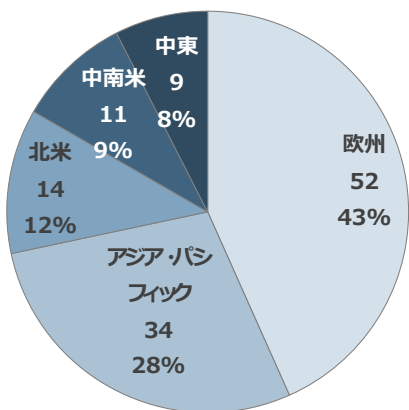
なお、講演内容及び本稿は筆者が担当した[文化庁「諸外国の現代美術に関する状況等に係る調査事業（平成 25 年度）」](#)に基づいている。

1. 世界の国際展の概況

そもそも我が国において国際展に関する定義が明確に存在するわけではない。同義で「芸術祭」、「トリエンナーレ（ビエンナーレ）」、「アートプロジェクト」などといった言葉で表現されることも多い。

筆者は、「数年に 1 回行われる国外作家も多く含んだ大規模な美術展」といったように認識しているが²この国際展につき世界では確実に 100 以上存在し、半分程度が欧州で行われ、また、近年はアジアパシフィックでも盛んに行われるようになっている³。

図表 1 世界の主要な国際展の開催地（左）・artnet News による世界の重要なビエンナーレ⁴（右）



ヴェネチア・ビエンナーレ (La Biennale di Venezia)	イタリア	2年おき
ドクメンタ (Documenta)	ドイツ	5年おき
ベルリン・ビエンナーレ (Berlin Biennale)	ドイツ	2年おき
リヨン・ビエンナーレ (La Biennale de Lyon)	フランス	2年おき
リバプール・ビエンナーレ (Liverpool Biennial)	イギリス	2年おき
イスタンブール・ビエンナーレ (Istanbul Biennial)	トルコ	2年おき
マニフェスタ (Manifesta)	欧州各国	2年おき
ホイットニー・ビエンナーレ (The Whitney Biennial)	アメリカ	2年おき
カーネギー・インターナショナル (Carnegie International)	アメリカ	3～5年おき
プロスペクト・ニューオリンズ (Prospect New Orleans)	アメリカ	不定期
サンパウロ・ビエンナーレ (Bienal de São Paulo)	ブラジル	2年おき
ハバナ・ビエンナーレ (Bienal de La Habana)	キューバ	2～3年おき
マラケシュ・ビエンナーレ (Marrakech Biennale)	モロッコ	2年おき
ダカート (DAK'ART)	セネガル	2年おき
シャルジャ・ビエンナーレ (Sharjah Biennial)	UAE	2年おき
シドニー・ビエンナーレ (The Biennale of Sydney)	オーストラリア	2年おき
光州ビエンナーレ (Gwangju Biennale)	韓国	2年おき
上海ビエンナーレ (Shanghai Biennale)	中国	3年おき
ヨコハマ・トリエンナーレ (Yokohama Triennale)	日本	2年おき
台北ビエンナーレ (Taipei Biennial)	台湾	2年おき

世界の主要な国際展の初回開催年からの年数や開催回数を整理したものが図表 2 である。国外ではヴェネチア・ビエンナーレやカーネギー・インターナショナルなど歴史があるものが存在するが、全体でみると 1990 年代に立ち上がったものが多く、日本でも 2000 年代に急速に様々な国際展が行われるようになった。

¹ 講演内容は CCNJ「平成 28 年度 文化芸術創造都市推進事業成果報告書」（P74～76）参照。

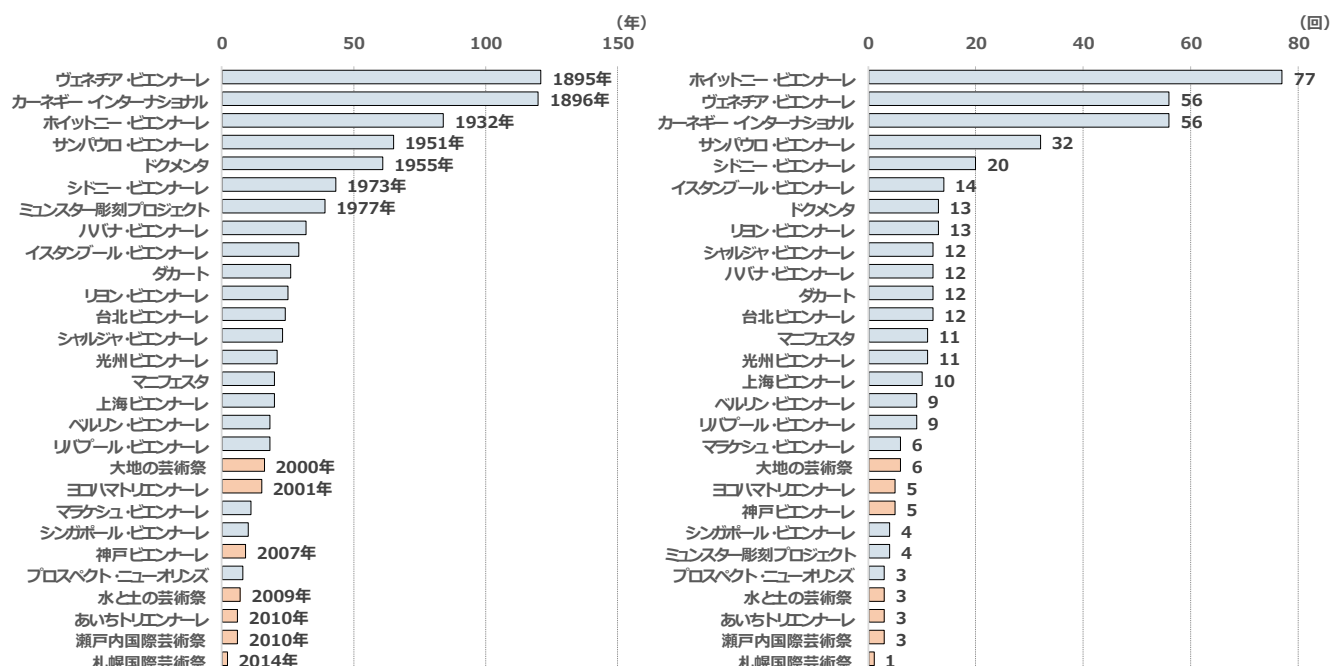
² オックスフォード辞書ではビエンナーレについて「a large art exhibition or music festival, especially one held biennial」と定義されている。

³ 整理においては「Biennial Foundation」、「Universes in Universe」などを参考。

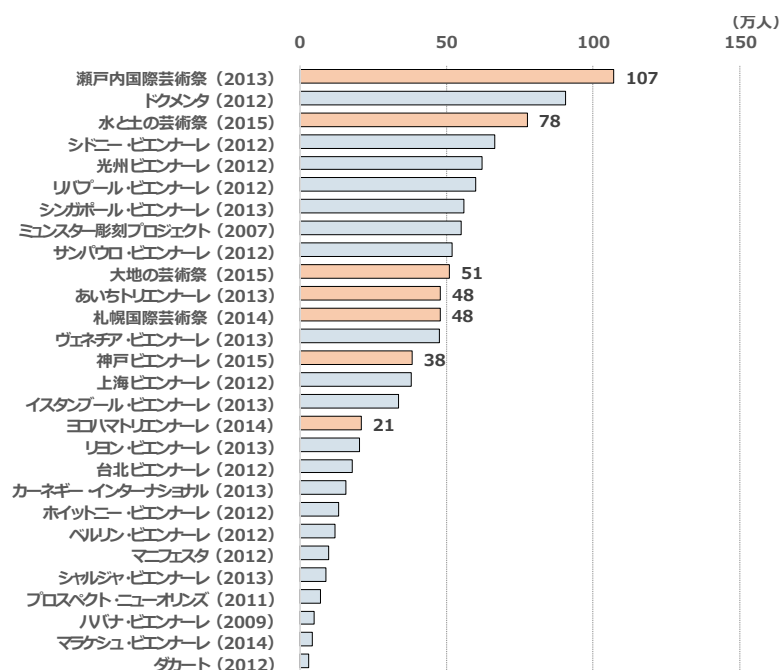
⁴ artnet News「World's Top 20 Biennials and Triennials」

また、世界の主要な国際展の来場者数を整理したものが図表3である。日本の国際展は世界的にみても来場者数が多い傾向がある⁵。

図表2 世界の主要な国際展の継続年数（左）・これまでの開催回数⁶（右）



図表3 世界の主要な国際展の来場者数



出所) 一般社団法人芸術と創造作成

⁵ 国際展によって、来場者数のカウント方法が異なるため、単純に比較はできない。参考情報としての位置づけであることに留意されたい。特に日本の国際展では複数会場のダブルカウント分が多い傾向。

⁶ 筆者の講演時点（平成28年8月）までの開催回数を基準としている。

また、世界の主要な国際展の収入内訳を整理したものが図表 1 である。大きな公的支援を受けているものが多いことが分かる。

主要な国際展の会場を整理したものが図表 5、入場料を整理したものが図表 6 である。必ずしも全ての国際展が「複数会場での開催」、「まちなか展開」を行うことを前提としているわけではない。また、無料に設定している国際展も多い。国内の多くの国際展では有料としているが、開催目的によっては、成果の最大化の視点から無料という選択肢も有効である。

図表 4 世界の主要な国際展の収入内訳

	百万€	費目別割合				公的支援の内訳 (€)			
		公的支援	ビエンナーレによる収入	スポンサーシップ	その他	中央政府	地方政府	地域政府	EU
サンパウロ・ビエンナーレ (2010)	16.2	6%	0%	82%	12%	0.1	0.9		
リヨン・ビエンナーレ (2009)	7.8	64%	14%	22%	0%	1.5	3.5		
光州ビエンナーレ (2010)	7.3	46%	23%	10%	21%	3.3			
シドニー・ビエンナーレ (2010)	7.1	46%	0%	21%	33%	1.5	0.6	1.2	
リバプール・ビエンナーレ (2010)	4.9	84%	5%	3%	8%	1.5	0.8	1.0	0.8
マニフェスタ (2010)	3.2	93%	0%	0%	2%	0.1	3.0		
ベルリン・ビエンナーレ (2010)	3.1	87%	9%	1%	4%	2.4			0.1
イスタンブール・ビエンナーレ (2009)	1.9	20%	11%	33%	36%	0.4			

出所) International Biennial Association 資料を基に一般社団法人芸術と創造作成

図表 5 世界の主要な国際展の会場

ヴェネチア・ビエンナーレ (2013)	イタリア	主要2会場 + 市内各所
ドクメンタ (2012)	ドイツ	市内各所
ミュンスター彫刻プロジェクト (2007)	ドイツ	市内各所
ベルリン・ビエンナーレ (2016)	ドイツ	主要4会場
リヨン・ビエンナーレ (2013)	フランス	主要5会場
リバプール・ビエンナーレ (2016)	イギリス	市内各所
イスタンブール・ビエンナーレ (2013)	トルコ	主要5会場
マニフェスタ (2016)	欧州各国	市内各所
ホイットニー・ビエンナーレ (2013)	アメリカ	単独会場 (美術館)
サンパウロ・ビエンナーレ (2014)	ブラジル	単独会場 (パヴィリオン)
シャルジャ・ビエンナーレ (2013)	UAE	主要2会場
シドニー・ビエンナーレ (2014)	オーストラリア	主要5会場
上海ビエンナーレ (2014)	中国	単独会場 (美術館)
光州ビエンナーレ (2014)	韓国	単独会場 (ビエンナーレホール)
台北ビエンナーレ (2014)	台湾	単独会場 (美術館)
シンガポール・ビエンナーレ (2013)	シンガポール	主要3会場

出所) 一般社団法人芸術と創造作成

図表 6 世界の主要な国際展の入場料

ヴェネチア・ビエンナーレ（2013）	イタリア	25ユーロ（約3,500円）
ドクメンタ（2012）	ドイツ	20ユーロ（約2,800円）
ミュンスター彫刻プロジェクト（2007）	ドイツ	無料
ベルリン・ビエンナーレ（2016）	ドイツ	16ユーロ（約2,240円）
リヨン・ビエンナーレ（2013）	フランス	13ユーロ（約1,800円）
リバプール・ビエンナーレ（2016）	イギリス	無料
イスタンブール・ビエンナーレ（2013）	トルコ	無料
マニフェスタ（2016）	欧州各国	30スイスフラン（約3,450円）
ホイットニー・ビエンナーレ（2013）	アメリカ	22ドル（約2,240円）
サンパウロ・ビエンナーレ（2014）	ブラジル	無料
シャルジャ・ビエンナーレ（2013）	UAE	無料
シドニー・ビエンナーレ（2014）	オーストラリア	無料
上海ビエンナーレ（2014）	中国	20元（約300円）
光州ビエンナーレ（2014）	韓国	14,000ウォン（約1,400円）
台北ビエンナーレ（2014）	台湾	30台湾ドル（約100円）
シンガポール・ビエンナーレ（2013）	シンガポール	10シンガポールドル（約800円）

出所）一般社団法人芸術と創造成

2. 主要な国際展の概要

以下、世界の主要な国際展として、運営方法も特徴的な「ヴェネチア・ビエンナーレ」、「ドクメンタ」、「ミュンスター彫刻プロジェクト」、「光州ビエンナーレ」、「台北ビエンナーレ」、「シンガポール・ビエンナーレ」の概要を取り上げる。

1) ヴェネチア・ビエンナーレ（イタリア・ヴェネチア）

- ・イタリア国王と王妃の銀婚式を記念して 1895 年から開催。
- ・その後は、美術以外にも領域を拡大し、1932 年にはヴェネチア国際音楽祭、ヴェネチア国際映画祭、ヴェネチア国際演劇祭、1979 年には建築展（美術展が実施されない年に、美術展と同じ場所で行われる）が開催。
- ・2004 年、会期以外の時期にも活動を行えるように財団が設立され、運営を行っている。
- ・企画展示部分と国別展示、関連企画から構成され、企画展示では、ヴェネチア・ビエンナーレ事務局が毎回ディレクターを任命し、ディレクターがテーマ、作家の選定を行う。
- ・国別展示では、各国がキュレーター、テーマ、作家を選定し展示を行う。
- ・会場は、ジャルディーニとアルセナーレをメイン会場としつつも、ヴェネチア各所でも国別展示や関連企画が実施されている（2017 年には 86 ヶ国が参加）。
- ・国や作家には、国別パヴィリオン部門として金獅子賞や特別表彰が、企画展参加アーティスト部門として金獅子賞、銀獅子賞、特別表彰などが主催者側から付与され、これらの賞を巡って国同士で争う側面があることから、美術のオリンピックと称されることもある。

図表7 ジャルディーニ・アルセナーレ及びその他のパヴィリオンの位置



出所) 公式 Web サイト

- ・ジャルディーニには 29 ヶ国・地域のパヴィリオンが常設され、あわせて、企画展示の会場となるセントラル・パヴィリオン (2,800m²) が立地している (日本は 1956 年からジャルディーニに日本館を構えている)。

ジャルディーニ



日本館



アメリカ館



フランス館



ドイツ館



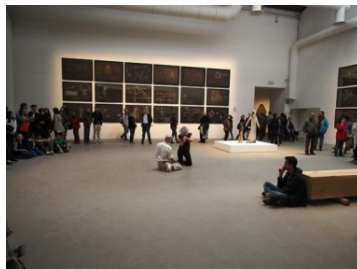
ルーマニア館



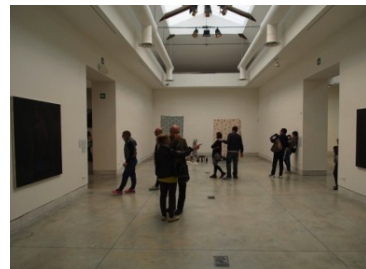
セントラルパヴィリオン内観



セントラルパヴィリオン内観



セントラルパヴィリオン内観



図表 8 ジャルディーニ内のマップ



出所) 公式 Web サイト

- 古くから参加している国・地域はジャルディーニにパヴィリオンを構えているが、参加国・地域の増加により、ジャルディーニにパヴィリオンを構えられなくなった国・地域は、アルセナーレ、もしくはヴェネチア内の建築・屋外にパヴィリオンを構えるようになっている。

街なかのパヴィリオン



街なかのパヴィリオン

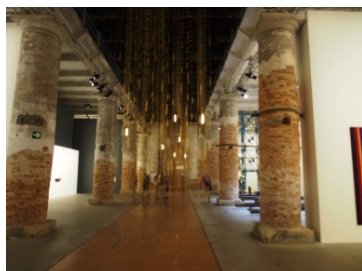


街なかのパヴィリオン (教会を使 展示)

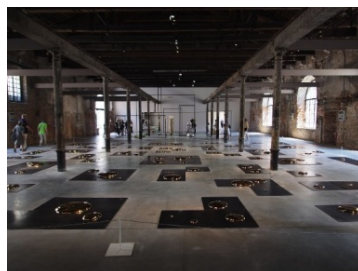


- 国立造船所として使用されていたアルセナーレは企画展示の会場として使用されるとともに、各国・地域の展示も行われている。敷地面積は約 50,000m² (屋内は約 25,000m²) に及ぶ。

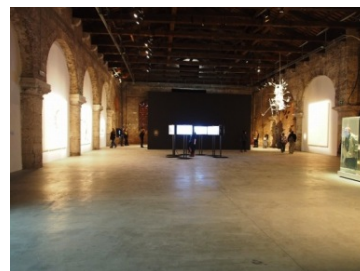
アルセナーレ内観



アルセナーレ内観



アルセナーレ内観

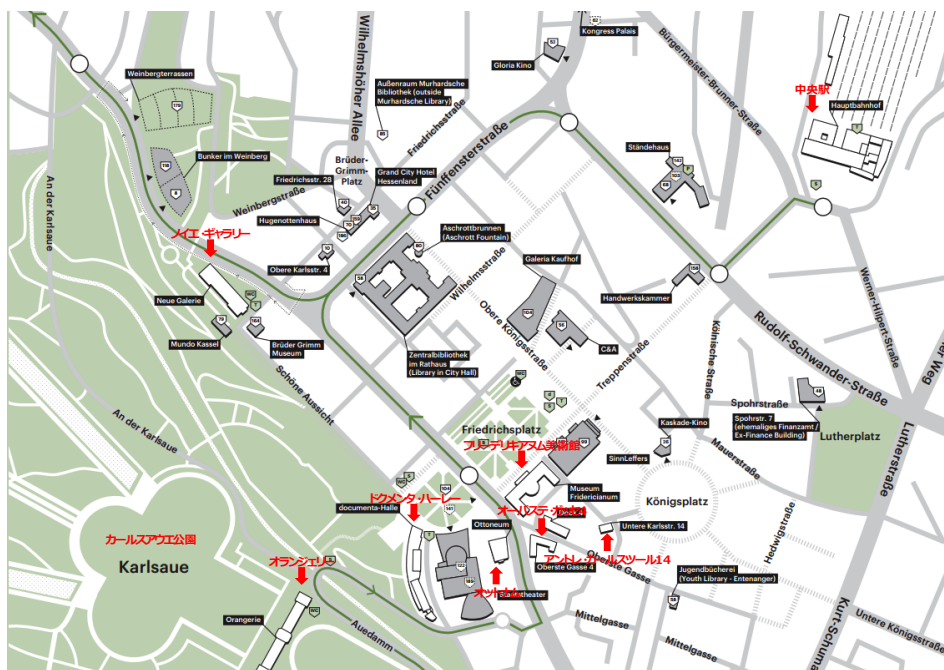


- ・会期は約6ヶ月（6～11月）。1日チケット（2会場それぞれの1回のみ入場が可能）は25ユーロ（約3,500円）。それ以外の国別パヴィリオンは無料。
- ・2015年の来場者数は50.1万人。
- ・ジャルディーニとアルセナーレの企画（国別企画は除く）の実施予算（2013年）は430万ドル（約4.4億円、230万ドルはイタリア政府からの支出、200万ドルは個人や財団等からの寄付）。国別展示は各国の負担となっている。

2）ドクメンタ（ドイツ・カッセル）

- ・カッセル出身の画家であり教授のアルノルト・ボーデにより、ナチ独裁政権によって分断されてしまった国際社会との調和をはかる目的で1955年に開催。
- ・初回は同年にカッセルで開催された「第3回西ドイツ連邦庭園見本市」の関連企画との位置づけだった。当初は4～5年おきに実施されてきたが、第5回（1972年）以降は5年毎の開催に固定されている。
- ・1人のディレクターがテーマと作家の選定を一任され、大きな権限を有している。
- ・ドクメンタでは、実施会場を固定していない。第14回（2017年では）フリーデリキアヌム美術館、ノイエ・ギャラリーなど34ヶ所を会場とした（多くが徒歩圏内）。また、2017年のみカッセルのほかギリシア・アテネも会場としている。

図表9 ドクメンタの主要会場⁷



出所）公式 Web サイトを基に一般社団法人芸術と創造作成

⁷ 第14回（2017年）のマップが電子ファイルにて公開されていないため、第13回（2012年）のものを掲載。



- ・会期は約4ヶ月間（6～9月）。1日チケットは22ユーロ（約3,000円）。
- ・2012年の来場者数は約91万人であった。
- ・ヴェネチア・ビエンナーレとドクメンタのキュレーターは、特に世界中の大きな話題となる傾向があり、これらは必ずしも自国内の出身であることに拘ってはいない。

図表10 ヴェネチア・ビエンナーレ及びドクメンタのキュレーター

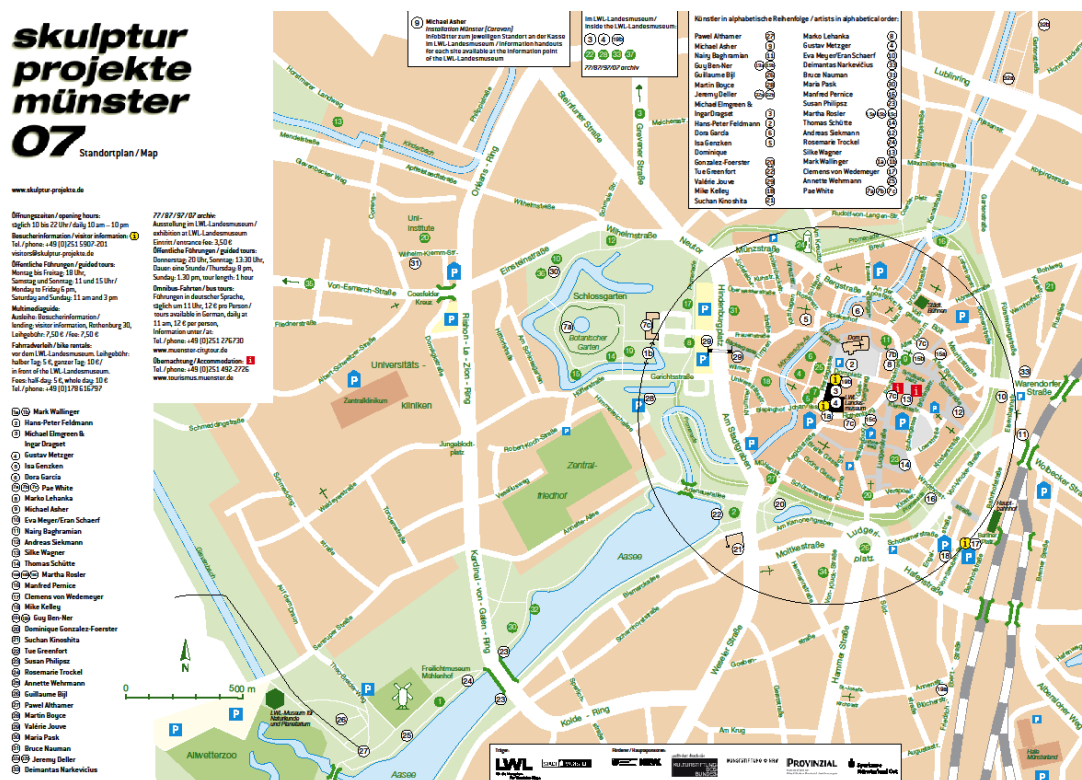
ヴェネチア・ビエンナーレ		ドクメンタ	
開催年	ディレクター	開催年	アーティスティック・ディレクター
2003年	Francesco Bonami（イタリア）	1992年	Jan Hoet（ベルギー）
2005年	Maria de Corral, Rosa Martinez（スペイン）	1997年	Catherine David（フランス）
2007年	Robert Storr（アメリカ）	2002年	Okwui Enwezor（ナイジェリア）
2009年	Daniel Birnbaum（スウェーデン）	2007年	Roger M. Buergel（ドイツ）
2011年	Bice Curiger（スイス）	2012年	Carolyn Christov-Bakargiev（アメリカ）
2013年	Massimiliano Gioni（イタリア）	2017年	Adam Szymczyk（ポーランド）
2015年	Okwui Enwezor（ナイジェリア）		
2017年	Christine Macel（フランス）		

出所）一般社団法人芸術と創造作成

3) ミュンスター彫刻プロジェクト（ドイツ・ミュンスター）

- ・1970年に彫刻家のジョージ・リッキー（George Rickey）がミュンスター市に彫刻の寄贈を提案したが、市や住民が難色を示したことから、この街におけるパブリックアートへの理解の促進を期して、ヴェストファーレン州立美術館の館長が1977年に展覧会を開始（以降、ミュンスター彫刻プロジェクトに発展）。
- ・10年に1回の頻度で実施され新作が制作されているが、各回のうち一部の作品はミュンスター市によって購入され、継続して展示されている（2017年には新規に38の作品が制作された）。現在では、恒常的に約30の作品が展示されている。
- ・全体予算は約500万ユーロ（約7億円）。
- ・予算はノルトライン=ヴェストファーレン州（State of North Rhine-Westphalia）、ファーレン・リップの地域協会（the Landschaftsverband Westfalen-Lippe : LWL）、ミュンスター市が費用を負担している。

図表 11 ミュンスター彫刻プロジェクトのマップ⁸



恒久展示作品



恒久展示作品



恒久展示作品



新作



新作



新作（ボーリング場跡地を活用した作品）



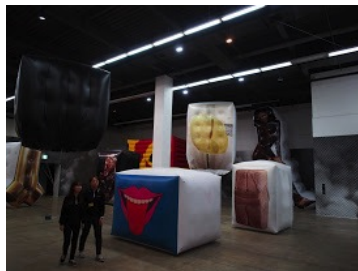
4）光州ビエンナーレ（韓国・光州）

- ・光州市では、1980年に民主化を求めた学生や市民による暴動が起こり、政府がこれを武力的に解決し、死者を出した（光州事件）。光州事件における民主化の精神（光州精神）を文化的活動と結びつけ、国際的に発信するために、1995年から光州ビエンナーレを開催。
- ・2005年からは光州デザイン・ビエンナーレも実施されるようになり、光州ビエンナーレと交互に開催されている。
- ・規模と内容ともにアジアで評価の高い国際展。
- ・各回ともに仲外公園内に立地するビエンナーレ・ホールをメイン会場として開催されている。

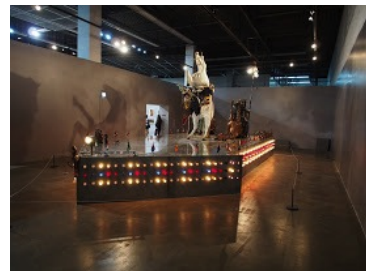
会場外観



会場内館



会場内館



- ・光州ビエンナーレ及び光州デザイン・ビエンナーレは財団法人光州ビエンナーレが実施している。
- ・総予算は90~100億ウォン（約9~10億円）である。
- ・以前は、政府からの支援が40%存在したが、近年の財政難により、代わりに光州市が20%を支出し、財団の基金から10%程度を支出、残りは入場料などの収入で補う形に変化してきている。
- ・自己収入拡大の観点から2010年からはビエンナーレ開幕の時期に合わせ、アートフェアを開催している。
- ・会期は約2ヶ月（9~10月）。2016年の入場料は14,000ウォン（約1,400円）。
- ・2012年には約65万人が来場。

- ・近年は、国際的なキュレーティング・チームを構成し、いち早く有力なキュレーターを採用することからも注目されている。

図表 12 光州ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	キュレーター
第4回	2002年	ディレクター：Wan-kyung Sung（韓国） コ・キュレーター：Charles Esche（イギリス）、Hou Hanru（中国）
第5回	2004年	ディレクター：Yongwoo Lee（韓国） コ・キュレーター：Kerry Brougher（アメリカ）、Sukwon Chang（韓国）
第6回	2006年	ディレクター：Kim Hong-hee（韓国） チーフ・キュレーター：Wu Hung（中国）
第7回	2008年	ディレクター：Okwui Enwezor（ナイジェリア） キュレーター：Kim Hyeon-jin（韓国）、Ranjit Hoskote（インド）
第8回	2010年	ディレクター：Massimiliano Gioni（イタリア）
第9回	2012年	コ・ディレクター： Nancy Adajania（インド）、Wassan Al-Khudhairi（クウェート）、 片岡真美、Sunjung Kim（韓国）、Carol Yinghua Lu（中国）、 Alia Swastika（インドネシア）
第10回	2014年	ディレクター：Jessica Morgan（イギリス） アソシエイト・キュレーター： Fatos Ustek（トルコ）、Emiliano Valdes（コロンビア）
第11回	2016年	ディレクター：Maria Lind（スウェーデン） キュレーター：Binna Choi（韓国） アソシエイト・キュレーター： Azar Mahmoudian（イラン）、Margarida Mendes（ポルトガル）、 Michelle Wong（中国）

出所）一般社団法人芸術と創造

- ・また、光州ビエンナーレで選ばれたキュレーターは、その後世界的に活躍する傾向。

図表 13 光州ビエンナーレの主要キュレーターの関与した国際展

キュレーター名	参加年	国際展名
チャールズ・エシャ	2000年	テート・トリエンナーレ
	2002年	光州ビエンナーレ
	2005年	イスタンブール・ビエンナーレ
	2014年	サンパウロ・ビエンナーレ
ホウ・ハンル	1997年	ヨハネスブルグ・ビエンナーレ
	2000年	上海ビエンナーレ
	2002年	光州ビエンナーレ（コ・キュレーター）
	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ（「Z.O.U.」の企画）
	2007年	イスタンブール・ビエンナーレ
	2007年	ヴェネチア・ビエンナーレ（中国館）
	2009年	リヨン・ビエンナーレ
マッシミリアーノ・ジオーニ	2003年	ヴェネチア・ビエンナーレ（「The Zone」の企画）
	2005年	マニフェスタ（コ・キュレーター）
	2006年	ベルリン・ビエンナーレ（コ・キュレーター）
	2010年	光州ビエンナーレ
	2013年	ヴェネチア・ビエンナーレ
オクウィ・エンヴェゾー	1996年	ヨハネスブルグ・ビエンナーレ
	2002年	ドクメンタ
	2006年	セビリア・ビエンナーレ
	2008年	光州ビエンナーレ
	2015年	ヴェネチア・ビエンナーレ

出所）一般社団法人芸術と創造

5) 台北ビエンナーレ（台湾・台北）

- ・台北市立美術館（Taipei Fine Arts Museum）が1998年から実施している国際美術展。
- ・1984年から1991年まで台北市立美術館によって2年に1度実施されていた企画展示が1992年に統合され、台北現代美術ビエンナーレとなった。
- ・海外の最新の現代美術を紹介し、台湾の芸術家を国際舞台に発信していくことを目的としている。



- ・美術館の展覧会のスタッフがビエンナーレのスタッフを兼務している（ビエンナーレ専任のスタッフは存在しない）。
- ・台北市立美術館が主催しており、台湾政府文化部、台北市文化局が資金的な援助を行っている。
- ・第9回（2014年）の予算は約3,600万台湾ドル（約1.2億円）。
- ・会期は約4ヶ月（9～12月）。通常料金は30台湾ドル（約100円）。
- ・第8回（2012年）の際には約17.9万人が来場。
- ・台北ビエンナーレでは第2回（2000年）から第7回（2010年）まで、世界的に著名なキュレーターを招聘し、そのキュレーターが台湾人のキュレーターを選び、共同でキュレーションを行うという仕組みをとってきた。なお、第8回（2012年）以降は単独のキュレーター制をとっている。

図表 14 台北ビエンナーレのキュレーター

開催回	開催年	キュレーター
第1回	1998年	コミッショナー：南條史生 アソシエイト・キュレーター：三木あき子、CHANG Fangwei
第2回	2000年	Jerome Sans（フランス）、Manray Hsu
第3回	2002年	Bartomeu Mari（スペイン）、Chia Chi Jason Wang
第4回	2004年	Barbara Vanderlinden（ベルギー）、Amy Cheng
第5回	2006年	Dan Cameron（アメリカ）、Jun-jieh Wang
第6回	2008年	Vasif Kortun（トルコ）、Manray Hsu
第7回	2010年	Tirdad Zolghadr（スイス）、Hongjohn Lin
第8回	2012年	Anselm Franke（ドイツ）
第9回	2014年	Nicolas Bourriaud（フランス）

出所）一般社団法人芸術と創造

6) シンガポール・ビエンナーレ

- ・2006年のIMF世銀総会のシンガポール開催にあわせて、シンガポールの存在感を世界中に広めるために開催された国際展。
- ・地元作家が世界に作品を発信するきっかけを与えるとともに、市民と現代美術の交流を深める重要な機会となっている。
- ・毎回、シンガポール・アート・ミュージアム、SAM at 8Q（シンガポール・アート・ミュージアムの別館）、シンガポール国立博物館（National Museum of Singapore）を中心に様々な場所を使って実施されている。

図表 15 シンガポール・ビエンナーレの主な会場



出所) 一般社団法人芸術と創造作成

アート・ミュージアム



アート・ミュージアム



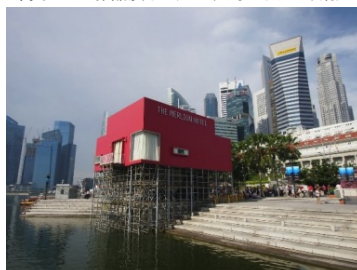
SAM @8Q



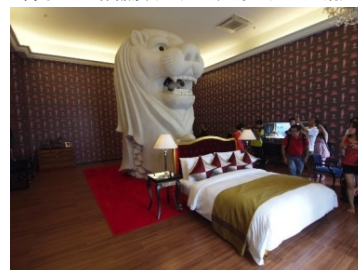
国立博物館



街なかでの作品展示（マールイオンホテル外観）



街なかでの作品展示（マールイオンホテル内観）



- ・第1回（2006年）と第2回（2008年）はアーツ・カウンシルの主催によって実施されたが、第3回（2011年）からは国家遺産委員会（the National Heritage Board）が管轄するシンガポール・アート・ミュージアム（Singapore Art Museum）が主催し、アーツ・カウンシルがそれを支援する形で実施されている。

- ・ 政府は 560 万シンガポールドル（約 4.5 億円）を支出している。
- ・ 第 1 回（2006 年）と第 2 回（2008 年）は日本からアーティスティック・ディレクター（南條史生氏）を招聘したが、第 3 回（2011 年）はシンガポール人のアーティスティック・ディレクターを採用している。
- ・ 第 4 回（2013 年）では、27 人のキュレーターからなるチームによって作家を選定するという実験的な取り組みを行っている。
- ・ 第 1 回（2006 年）と第 2 回（2008 年）は秋、第 3 回（2011 年）は春に開催されていたが、第 4 回（2013 年）はシンガポールで最大のアートフェアであるアートステージ・シンガポールと連携するため冬に開催期間を変更している。
- ・ 会期は約 4 ヶ月（11~2 月）。通常料金は 20 シンガポールドル（約 1,600 円）
- ・ 第 4 回（2013 年）では期間中に約 56 万人の来場があった（3 つの会場の述べ来場者数）。